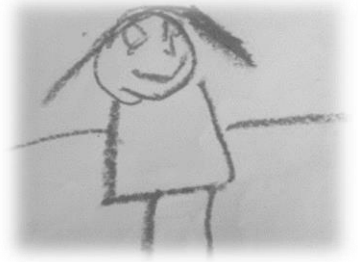


# 誕生日のポーズ絵

～関節の曲がり方に気づくきっかけとして～

幼児が描く人物画は、右の写真のように胴体から手足がまっすぐ出ていることが多いですね。手足が曲がる様子を表現することは、幼児にとって、なかなか難しいことのようにです。



そこで、実際の人間を絵として写し取って、肩や手の位置、関節の作りに気づかせようという意図での、「ポーズ絵」の提案です。年長さんは、6歳の誕生日がくると、お祝いに5～6人の友達に等身大のポーズ絵を描いてもらえます。



鉛筆を体に沿わせながら輪郭をとっていきます。みんなで鉛筆を順番にリレーしながら、描いていきます。



「洋服は、どうする？ここは水色でいい？」友達に聞きながら、みんなで相談して描くのも楽しい経験です。



この教材を本園では、単に体の構造に気づくという意味だけではなく、友達関係を育てる意味も込めて、年長で取り入れています。誕生日はこの時は主人公ですから、自分の好きな洋服をリクエストしたり、周りもそのリクエストに応えようと一生懸命です。このように友達と一緒に描くことで、相手の話に耳を傾けるようになります。また、あまり遊んだことのない友達の絵を描くことで仲良くなることもあります。保育者は、わざとそのような機会を作るために、グループ編成に工夫を凝らします。

この「ポーズ絵」だけでなく、手足の曲がり具合に気づくための教材として、他にも割ピンで手足を自在に動かせるようにした壁面構成なども取り入れています。「いもほり」「運動会」など、題材はいろいろ工夫できますが、自分を描いた「わたし」の手足を後から切り、関節部分を割ピンで繋いで作ります。(文責：白石)



このような経験が積み重なった効果でしょうか、動きのある人物画も描けるようになったようです。